

令和7年度 秋田大学教育文化学部附属小学校
公開研究協議会Ⅱ

本校の実践・研究について

令和7年12月5日（金）

R7研究主題

自律した学習者が育つ 授業デザイン

1年次重点

子どもが**問題解決に没頭**する
単元開発

研究の目的

①各教科等における、**自律した学習者の具体的な姿**を見いだす。

②自律した学習者の姿が見られる「**授業デザイン**」の要点を明らかにする。

→仮説検証型ではなく、**仮説生成型**の研究

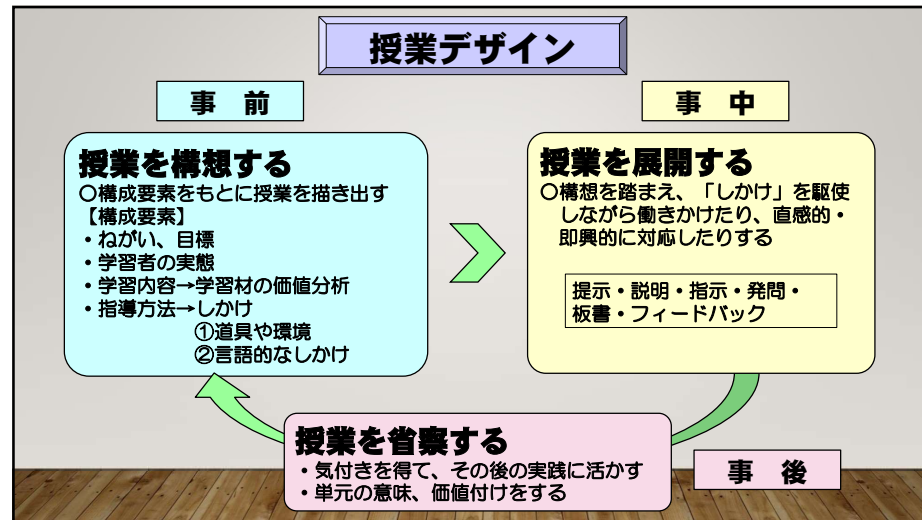
授業デザイン → 鹿毛先生の著書を基にして本校として定義

・授業のすべての局面（授業の**構想・展開・省察**）に見いだされる。

①**構想**→構成要素をもとに授業を描き出すこと

②**展開**→構想を踏まえ、「しかけ」を駆使しながら働きかけたり、直感的・即興的に対応したりすること

③**省察**→気づきを得て、その後の実践に活かすこと
単元の意味、価値付けをすること



授業デザイン ①構想

- ・ **学習者の実態**
- ・ **目標、ねがい**
- ・ **学習内容**
- ・ **指導方法**

文章や説明によるまとめに
気が向かない子ども、活動に
没頭できるように…



授業デザイン ①構想

- ・ 学習者の実態
- ・ 目標、ねがい
- ・ **学習内容**→**学習材**の**価値分析**
- ・ **指導方法**
 - ①道具や環境としてのしかけ
 - ②言語的なしかけ

授業デザイン ①構想

- ・ 指導方法

①道具や環境

登場人物になりきり行動
して考える「**演劇的手法**」



②言語的なしかけ

単元名
「**そら組の友達と一緒に楽しもう**」



授業デザイン ②展開

- ・しかけを駆使しながら働きかけたり、直感的・即興的に対応したりすること



提示・説明・指示・発問・
板書・フィードバック



授業デザイン ③省察

- ・気づきを得て、その後の実践に活かすこと

表情、発言、記述などから子どもの内面を解釈し、
手立てに反映させる。

↓ (繰り返し) ↑

再度子どもを見取り、
自分の手立てを評価し、次に生かす。

- ・単元の意味、価値付けをすること

子どもの見取りの解像度を上げる取組

授業参観の視点の共有

子どもの姿の事実を、教師なりに解釈しながら見取る。

- 【事実】 ・「何をしたのか (do)」
【解釈】 { ・「何を考えたのか (think)」
・「どう感じたのか (feel)」
・「何をしたかったのか (want)」



見取った子どものその姿が現れた要因を考える。

- 【要因】 背景、性格、
授業デザイン (学習材、教師のしかけなど)

授業者の見取りの記録 [R7オープン研]



主に黒色の絵の具で島の中を表現していた彼は、友達との会話をきっかけに他の色も使い始めたようだった。4つの丸が集まっているおかしについて尋ねると、それはグミらしく「だって一つずつ色が違うでしょ。」と得意げに答えた。自分の作品について語り出した彼には、自分の色使いへの自信がうかがえ、彼の中で物語が広がり始めたことを感じた。だからか、その後さらに使用する色の数が増えていった。

ピンク色：事実 黄緑色：解釈 水色：要因



その後、色の濃淡のグラデーションを実践する変容も見られたので、取り上げて価値付けたところ、最終的に豊かな色使いの表現につながった。

子どもの表現のよさや工夫している姿を見取って、積極的に価値付けることがその後の表現意欲につながるといふ学びを得た。

授業参観者の見取りの記録【R7オープン研】

児童がなかなか作業に入らずにいる姿が印象的だった。はじめは参観者に緊張しているために、筆が進まないのではないかと感じていたが、よく見ると、パレットの上の青色をじっと見つめ、絵の具を溶かす水の量を少しずつ調整し、色の濃淡を調整していることに気付いた。画用紙に色を塗る前には余った紙に何度も試し塗りをして、理想の青色に近づけようとしている様子だった。この児童は自らが考えた「自分だけの島」に愛着をもっており、こだわって表現しようとしている姿だと感じた。



14

机間指導で周ってきた葉子先生から「グラデーション使ってみたんだ。きれいだね。」と言われると笑顔になった。自分なりの工夫を認めてもらったことが嬉しかったようだ。先生がいなくなると、また型紙を切り、今度はその紙に絵の具をにじませる技法を使って花火を表現しだした。挑戦してみたグラデーションの表現技法を認められた安心感からか、さらに新しい表現技法に取り組み、作品をよりよくしようと考えたのだろうか。表現したい内容に合わせた技法が準備されていること。教師がそれを見取って価値付ける目を持っていることが重要だと感じた。



15

教材の理解、授業改善につなげる取組

ワークショップの導入

学習者として提案授業の目玉となる活動を体験
提案授業の背景の専門的な見地からの解説

- ・体験が見取りの解像度を上げる支えになる。
- ・授業者は、学習者の反応やフィードバックから、自身の構想の手応えを確かめられる。
- ・学習材の分析、子どもの姿の価値付けができる。



16

1 年次重点

子どもが問題解決に没頭する単元開発

- ①素材の価値を分析し、**学習材として意味付ける**こと。
- ②しかけを構想すること。また、**しかけを駆使して働きかけたり、直感的・即興的に対応**したりすること。
- ③開発した単元が子どもにとってどのような**意味や価値**があったかを省察すること。

1 年次重点

子どもが**問題解決に没頭**する単元開発

「？」や「！」が浮かび、
「調べてみたい」「やってみたい」と
意欲のスイッチがオンになった、心が動いている状態
↓
意欲的に探究している姿

問題解決への没頭

ある程度は達成はできているが
まだ100%満足はしていない、
さらなる満足感（よりよい解決）を
求めている状態
「まだできるはず、よりよくしたい」

没頭する姿 not 没頭する姿

① 生活科 自分たちの（体験物）をこれから学ぶにつけていく（愛着をもって学ぶ）
② 外国語 意味のあるもの...
③ 図工 表現したいものを表現技法を...
④ 音楽 表現したいものを表現技法を...

自分のもつ力が使えないか模索している状態
「なんとかして使えるものはないか」

意図的に試行している状態
「これをすればどうなるかな」

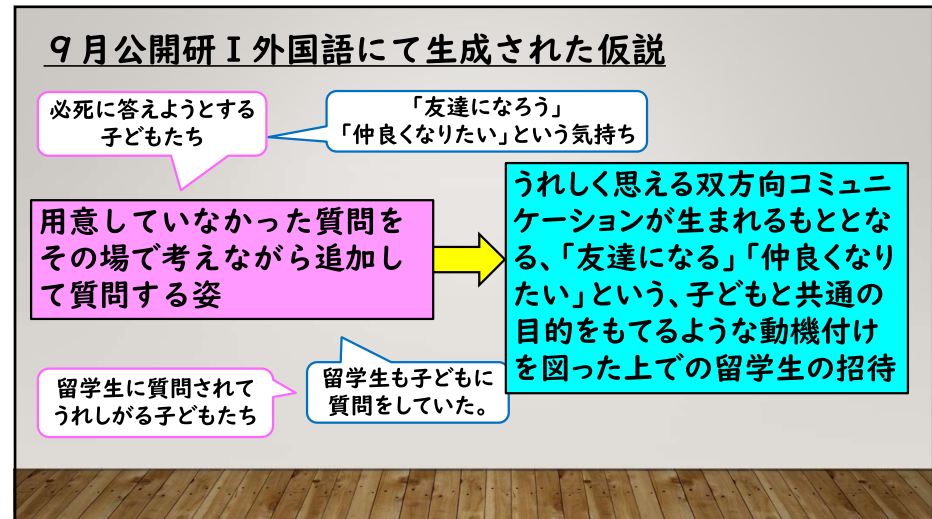
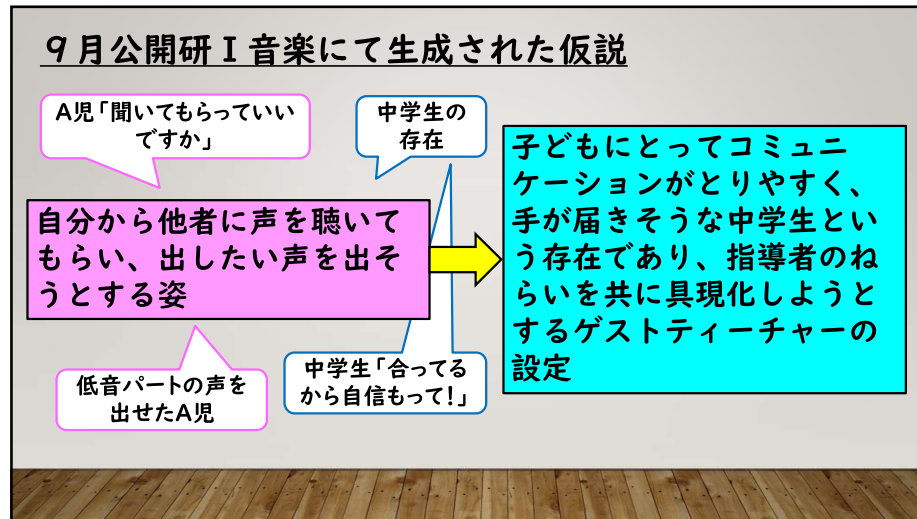
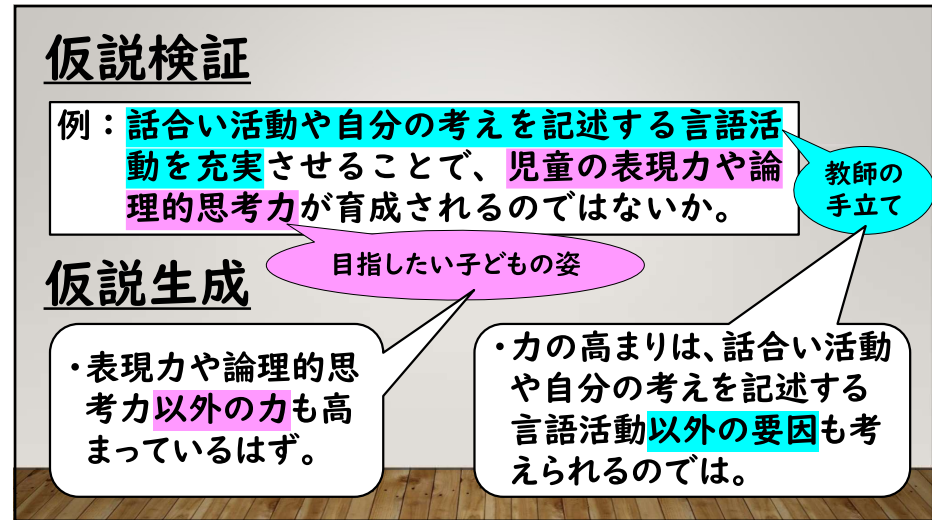
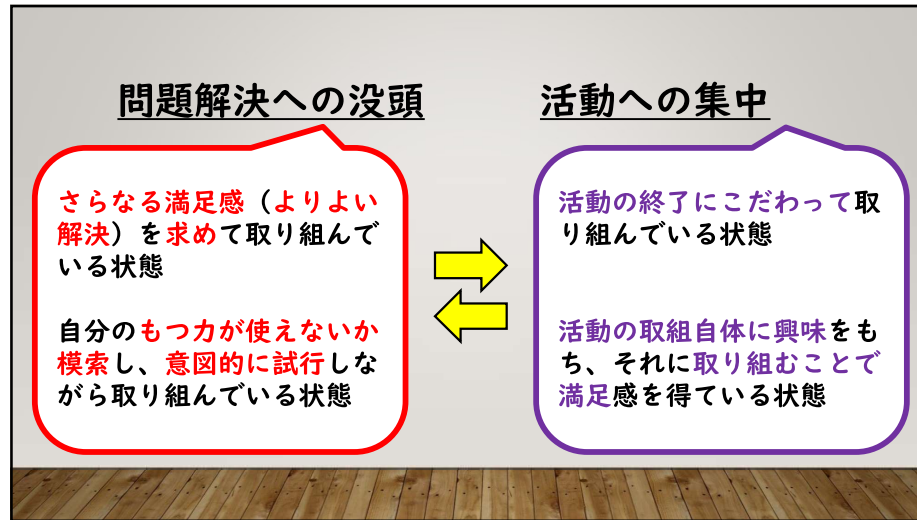
活動への集中

活動の取組自体に興味をもち、
それ（作品づくり、問題への解答）に
取り組むことで満足感を得ている状態

没頭する姿 not 没頭する姿

① 生活科 自分たちの（体験物）をこれから学ぶにつけていく（愛着をもって学ぶ）
② 外国語 意味のあるもの...
③ 図工 表現したいものを表現技法を...
④ 音楽 表現したいものを表現技法を...

活動の終了（作品の完成、問題への正答）に
こだわって取り組んでいる状態



9月公開研Ⅰ体育にて生成された仮説

「相手チームには決定的な弱点がある…!」

教師のグルーピングによるチーム編成

対戦する相手チームに合った、意味のある作戦を立てる姿

相手チームにいるB児の性格を熟知している。

回数を重ねた活動

互いによく知る友達関係を生かせるグルーピングと、そのグループでの継続した活動

本日はご指導よろしくお願いいたします

